

# 「柏崎の橋」

## 39 大洲橋

大洲橋は、鶴川に分断される形となっている大久保一丁目をつなぐ橋である。

鶴川が大久保一丁目町内を分断して流れているのは、昭和53年の6.26水害を契機とした鶴川の激特工事により、川筋が大幅に変更されたためである。



工事中の大洲橋付近  
(柏崎市史資料集 近現代篇3下より)

かつてこの地域を蛇行して流れていた頃の鶴川には、上流から順に柏鋤橋・新橋・水道橋が架かり、人々から親しまれていた。中でも新橋は江戸時代に架けられ、幾度となく架け替えられてきた歴史ある橋だったが、川筋の変更により3本の橋は役割を終え、取り壊された。新しい鶴川に新設された唯一の橋が大洲橋である。

命名の由来は定かではないが、長年親しまれてきた3本の橋に代わる橋であるため、地域の名前を冠したと考えられる。

橋は長さ62.5m、幅5.5mのコンクリート製。新設された117mの市道5-53号線の一部であり、昭和57年12月24日に市道と併せて供用を開始した。両端の親柱にある銘板の揮毫は、激特工事に尽力した当時の今井哲夫市長によるものである。

銘板には「竣工昭和五十八年三月」とある。昭和58年3月2日、氷雨降る中で行われた新しい鶴川の通水式には、関係町内から多くの市民が詰めかけ、通水の様子を見守った。

鶴川激特工事のため移転を余儀なくされた88戸のうち67戸が、住宅が密集する大久保一丁目地内からによるものであったという。



現在の大洲橋

昭和59年3月27日に産業文化会館で行われた「鶴川激甚災害対策特別緊急整備事業竣工式」には地権者・国会・県会・市会・県市当局・工事関係者約250人が参集し、約64億円の巨費を投入した大事業の完成を祝った。

### ●参考にした本

柏崎市史資料集 近現代篇3下 (224Kシハ)

柏崎市史編さん委員会 編

子供とつづるふるさと大洲 (224Kオオ)

柏崎市立大洲小学校 編

わたしたちのまち 大洲 (224ワタ)

『わたしたちのまち大洲』編集委員会 編

柏崎日報 昭和57~59年